

玉名郡倉跡

玉名市立願寺西段所在

【お問い合わせ】

玉名市教育委員会
文化課文化財係

TEL:0968-75-1136
bunka@city.tamana.lg.jp



玉名郡衙関連遺跡

立ち並ぶ米蔵を溝が囲む

奈良時代、律令制度の税（租）として納められた粳を貯蔵する場所が倉院（郡倉）です。『日本三大実録』の貞観 17（857）年6月の条に「大鳥二集肥後國玉名郡倉上」と書かれています。玉名郡の郡司であった日置氏は、玉名郡衙を整備したと考えられており、朝廷と大宰府の管轄のもと大きな力を誇っていたと考えられています。

■礎石が語るもの

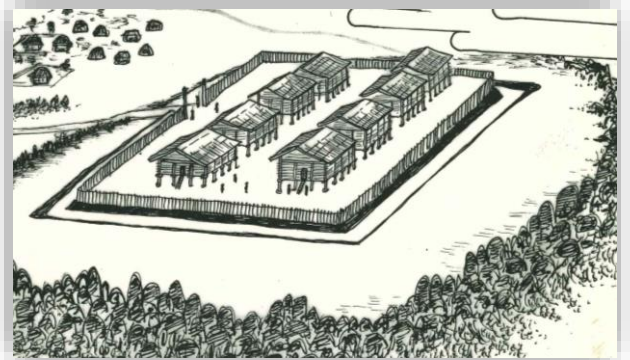
～当時の姿を彷彿させる遺構～



▲昭和31年調査時の礎石出土状況



礎石が残る郡倉跡



玉名郡倉跡の想像図



▲露呈する礎石
昭和31年のトレンチの跡です。

足野神社北側の台地上に位置しており、礎石が露呈している部分の一部が市の登録遺跡になっています。この礎石は、昭和31年の玉名高校考古学部の調査によって発見された4つ並んだ礎石の一部で、原位置のまま残存しています。付近からは炭化した米も出土したことから郡倉跡と推定されました。



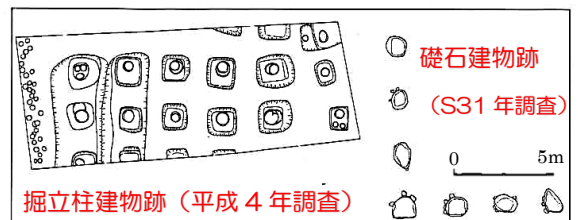
掘立柱建物跡の検出状況（平成4年調査）



出土した炭化米



▲市道工事の際に出土した礎石は博物館南側階段下に移設してあります。



▲昭和31年に発見された礎石建物跡の南側を平成4年に調査したところ、掘立柱建物跡が検出されました。掘立柱は少なくとも3回は建て替えられたようです。

■これまでの発掘調査から

～その規模と構造を遡う～

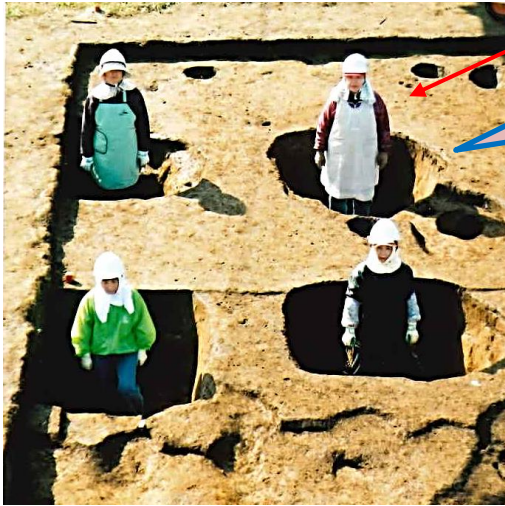
平成4年度に実施された調査では、礎石を使った建物より古い時期の掘立柱建物が確認されています。

その隣接地を平成14年に調査した結果、規則的に並んだ建物跡を確認しています。見つかった柱穴は、直径が1mから1.5mもある大きなもので、周囲には柵列と溝が巡っていたことがわかりました。その後の確認調査でも溝が検出され、全体像がわかりつつあります。



建物跡 柵列跡 溝跡

掘立柱建物跡と柵列・溝跡（平成14年度調査区）



こんなに大きい柱穴です。



柵列跡

南北100尺(約30m)以上、東西180尺(約50m)以上の長方形区画に柵列と溝を巡らせ、その中に南北2棟、東西4列の計8棟の米倉が造営されたと想定されています。当初は掘立柱で、8世紀代に礎石建物へ変わったと考えられています。その間も数回建て替えが行われたようです。

▲掘立柱建物は、古韓尺(一尺が26.7cm)、礎石建物は唐尺(一尺が29.6cm)の寸法が用いられているようです。



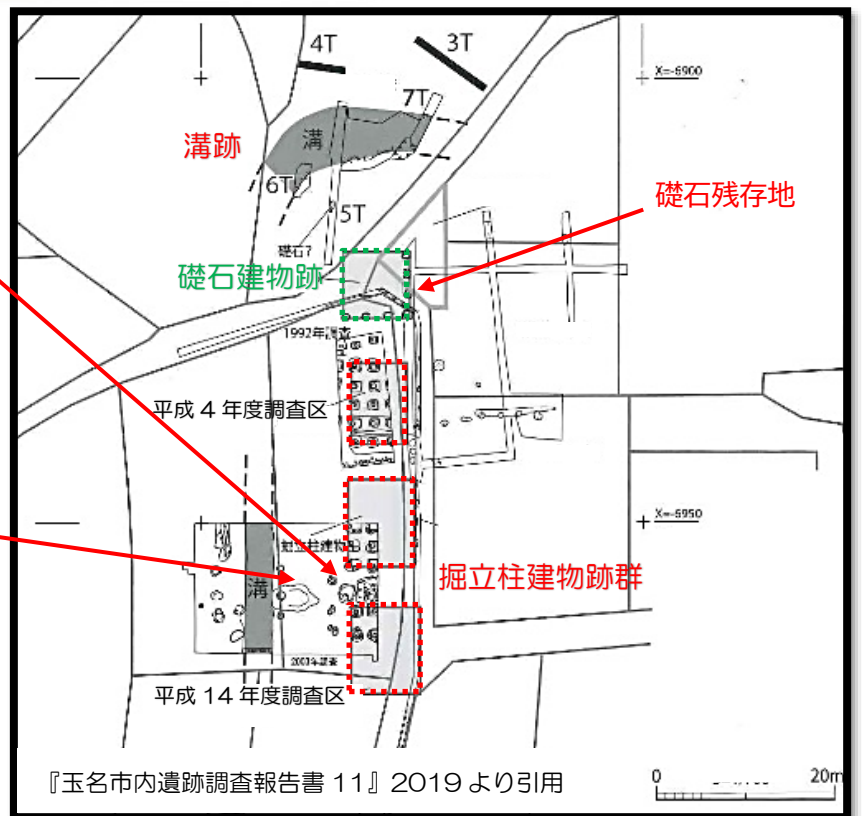
これは、山鹿市にある古代山城の鞠智城跡に復元されておる米倉じゃ。このような建物があったと考えられるぞ。



出土した瓦



須恵器の大甕と出土状況



『玉名市内遺跡調査報告書11』2019より引用

0 20m